

# 令和元年度 先進都市視察 報告書

大阪府南部市議会議長会

報告市議会	泉大津 市議会
報告者	議長 池辺 貢三 副議長 大塚 英一 事務局長 松下 良
視察日時	令和元年7月25日(木) 13:30~15:30
視察先	茨城県 常総市
概要	<p>平成27年9月関東・東北豪雨災害について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・鬼怒川で1カ所の堤防決壊、7カ所(市内3カ所)の溢水・越水が生じ、堤防の漏水や護岸崩壊による被害も多数発生し、八間堀川においても被害が発生した。そして、市域の3分の1にあたる約40km<sup>2</sup>が浸水し、鬼怒川東地区で多くの家屋や事業所で浸水などの被害を受けた。この災害を受け、復興計画の指針となる復興ビジョンを策定し、復興に向けてハード面・ソフト面での様々な取組を行っている。</li> <li>・ハード面では、堤防の拡張かさ上げを行うとともに、災害時非常用電源周辺に高さ2mの防水壁設置と庁舎入り口へ緊急時用の浸水板を設置した。また、防災意識の向上と、将来を担う若い世代へ災害の恐ろしさを引き継ぐことを目的に、市内約350カ所の電柱に国交省が定めた想定最大規模降雨(千年に一度)の浸水値を設置している。</li> <li>・ソフト面では、未曾有の災害に対応するには、災害対策本部の環境整備だけでなく、平時の態勢から災害時の態勢への素早い移行、各世帯が家族構成や生活環境に合った防災行動を行う「マイタイムライン」の普及などの教育・訓練の重要性の説明を受けた。また、防災訓練はイベント型訓練から一斉実動訓練に切り替え、市の指示がなくても災害時の教訓を活かすことのできる訓練実施に取り組んでいる。</li> <li>・さらに災害情報システムの整備についても進めているとことで、要配慮者対策として、個別受信機、テロップ表示器、テレビへ自動による緊急文字表示の実施やスマートフォンアプリの整備、防災情報のポータルサイトの整備など災害情報システムの構築についても説明を受けた。</li> </ul>

所 見	<p>平成27年9月関東・東北豪雨災害について</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ハード面・ソフト面について様々な取組を学ばせていただいた。本市においても、昨年の台風21号による停電や対応のあり方等、様々な課題を垣間見ることができたので、個別受信機の設置やシナリオのない訓練実施、常総市で取り組まれているマイタイムラインの普及など、災害対策本部としての取組にあわせて、自身の生命を守ることを最優先にするための防災意識の向上施策に取り組む必要が最重要であると感じた。</li><li>・広域避難の状況について、近隣市への避難者が最大で4,500人だったとのことで、こうした災害時に近隣市との協力体制について整えておく必要性を強く感じた。</li><li>・災对本部の環境整備がとりわけ大事であると力説されていたのは、陸上自衛官として災害現場で活動された方のお話しであったので、非常に説得力があった。本市においても退任自衛官を危機管理課で受け入れるので、よい影響を与えていただけるものと期待している。</li></ul>
-----	--

# 令和元年度 先進都市視察 報告書

大阪府南部市議会議長会

報告市議会	泉大津 市議会
報告者	議長 池辺 貢三 副議長 大塚 英一 事務局長 松下 良
視察日時	令和元年7月26日(金) 9:30~11:30
視察先	千葉県 松戸市
概要	<p>子育て支援事業について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「子どもへの投資は未来への投資である」という市長の考え方のもと、「やさシティまつど」をスローガンに子育てしやすい街づくりを市の最重要施策の1つに掲げ、幅広い子育て支援を実施している。その結果、日経DUALが発表する「共働き・子育てしやすい街ランキング」において、例年高い順位を獲得されている。</li> <li>・乳幼児向け遊び場(全25箇所)に子育てコーディネーターを配置し、様々な取組を実施しており、幼稚園では預かり保育などにより機能強化を行い、子育て世代の応援に最大100万円を支給している。</li> <li>・子供の貧困対策については、松戸市子どもの未来応援プランを策定し、社会全体で応援することにより、支援に繋がっていくという考え方のもと、子供の居場所作り事業や子供の学習支援事業など6つの事業に取り組んでいる。</li> <li>・保育士の確保については、松戸市独自の取組として、松戸手当の支給、新卒保育士への家賃補助、保育士宿舍借り上げ、保育施設従事者支援補助金、資格取得支援業務、就職支援貸付金、保育士要請就学資金貸付金など保育士を支える取組が数多くなされており、これらの待遇によって保育士の確保に繋がり、定員数の受け入れも可能となっている。</li> <li>・松戸市の人口は昭和35年以降は年間約12,000人のペースで増加しており、平成になっても緩やかに増加している。その人口動態をみると、昨年においても前年比で、自然動態では807人減少しているが、社会動態では2,976人増加している。</li> </ul>

所 見	<p>子育て支援事業について</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・松戸市における子育て支援策に対する予算額は、平成30年度の実績で297億円とのことで、本市の一般会計予算総額(平成31年度当初)が約270億円であることから、財政規模の違いに驚愕したが、保育士確保のための取組や待機児童ゼロへの取組など、民生費を特に厚くし、様々な施策につなげている点は大変勉強になった。</li><li>・本市においても保育士の確保が喫緊の課題になっており、秋から始まる幼児教育無償化の影響により、保育ニーズはさらに高まることが考えられ、充実した子育て支援策につなげられるよう引き続き尽力していくことが求められることを再認識した。</li><li>・注目したのは松戸市の位置で、東京や埼玉と隣接しているという点から都心のベットタウン的な要素が強く、人口も急速に伸びているため、潜在的に子育て支援に注力していく要因はあったと思われる。</li></ul>
-----	--

# 令和元年度 先進都市視察 報告書

大阪府南部市議会議長会

報告市議会	泉大津 市議会
報告者	議長 池辺 貢三 副議長 大塚 英一 事務局長 松下 良
視察日時	令和元年7月26日(金) 13:30~15:00
視察先	東京臨海広域防災公園
概要	<p>(施設見学) そなエリア東京</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>東京臨海広域防災公園は、国の災害応急対策の拠点として整備された約13.2haの公園で、首都直下地震等の大規模な災害発生時に、災害現地対策本部等が置かれる首都圏広域防災のヘッドクォーター及び広域支援部隊等のベースキャンプ、災害医療の支援基地として機能する防災拠点施設である。平常時には、関係機関による防災情報の交換や各種訓練など発災時に備えた活動、来園者を対象とする体験・学習・訓練を実施するとともに、臨海副都心におけるアメニティ機能も備えている。</li> <li>そなエリア東京は、公園内にある体験学習施設で、東京直下72h TOURや津波避難体験コーナーなどのある防災体験ゾーンと映像ホールや首都直下地震特設コーナーなどのある防災学習ゾーンを備えている。</li> <li>東京直下72h TOURは、災害発生から国や自治体などの支援体制が整うまでの72時間を自力で生き残るための知恵と行動などについて、タブレット端末を使ったクイズに答えながら学ぶ防災体験学習ツアーとなっている。</li> </ul>
所見	<p>(施設見学) そなエリア東京</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>国民の生命・財産・身体を守るための施設となっていることを目の当たりにしながらも、平常時は公園活用として賑わいを見せる現地は、本市の市民会館等跡地活用につながるものがあるように感じた。</li> <li>圧巻だったのが施設内のオペレーションルームで、300インチのモニターや多数のパソコンが設置されていて、まさに情報収集の拠点として役割を果たしていることが実感できた。</li> <li>防災体験学習では、1人1台タブレット端末が渡されて場内に入り、クイズ形式で防災に関する知識を身に付けさせる手法は、子どもたちには特に楽しく学べるのではないかと感心した。毎年入館来場者数が増えてきており、近年では海外からの視察も多いとのことで、防災に関する意識が高まっていることがよくわかった。</li> </ul>